

ひろしま・ブルガリア協会

会長 今村 功 様

早いもので、郷里(富山県砺波市)に戻って田舎生活を始めてから半年が過ぎてしまいました。

当初、転居に伴う種々の雑務や、古い家の改修・整理を行いながらの引越し荷物の配置などに時間がとられ、あまり自由な時間がありませんでした。また、高校を卒業してから47年間(京都4年、金沢27年、広島16年)も留守にしていたから、約半世紀ぶりの田舎は「浦島太郎」のような状態で、近所の人々の名前や地域システムが分からず右往左往の状態でした。今は、地区の行事や会合などに出席し、限られた旧友や近所の人に助けをもらいながら、何とか郷里(旧名は新屋敷)に溶け込めそうな雰囲気になっています。さらに、広島と違い、ここ砺波ではこれまでのキャリアを生かせるような機会も少ないのですが、知人(富山大学大学院医薬学研究部放射線基礎医学講座の近藤教授)の紹介で富山大学大学院医薬学研究部の非常勤講師をたのまれ、徐々に学生さんを相手にしながら講義や研究指導を行っています。週に1~2回程度ですが、家から車で40~50分かけて富山大の医学部・大学病院キャンパス(杉谷キャンパス)に出かけています。

いずれにしても、芸術分野の趣味とは無関係の生活をしてきましたので、ほとんど毎日「晴耕雨読の生活」をしています。広島と違って自前の空きスペースが十分ありますので、晴れた日は庭先で家庭菜園に汗を流しています。近所の専門家(農家)の方々からの親切な指導のおかげで、これまでにキャベツ、レタス、トマト、ナス、オクラ、ブロッコリーなど非農家の友人に配るほどの収穫となりました(これは家内と共同作業)。

ここには近況報告として写真を添付します。8月に地域の行事として参加した立山登山(高山植物・ハクサントリカブトがきれいでした)と家の近所の写真です。

ご存知のように、砺波平野は散居村地域(家々が平野に点在)として有名です。今住んでいる家はその典型で、カイニョとよばれる屋敷林で建物(古い方の家は典型的なアズマ建ちという形式の家屋です)が囲まれています(3年前に小さな別宅を建てました)。毎年、砺波市で10月の連休(6~8日)に「スカイフェスとなみバルーン大会」が開催されますが、その折に近所の田んぼに飛来した熱気球と一緒に農家の家々を撮ってみました(真ん中の奥が私の家)。ところで、先日「砺波を訪れたいが何時頃がいいか…。観光するなら何処、滞在先は…。」との電話を受けました。その後どのような計画をされているのでしょうか…?

紅葉を楽しむならば、立山近辺や五箇山ですが、11月半ばを過ぎれば北陸地方は天候が不順となりますので、今月下旬か来月中旬までがお勧めです。

北陸本線の高岡駅まで来ていただければお迎えに行きます(暇ですので、ご希望のところには何処でもご案内致します)。

家内ともども、是非ともひろしま・ブルガリア協会の皆様が砺波に来ていただくことを切望しております。

二人で歓待しますので、その旨をよろしくお伝えくださいますようお願い申し上げます。

鈴木 文男

裕子



立山の訪問旅行



扇状平野・散居村独特の家(左)・鈴木名誉教授宅(右の家は最近新築)



扇状平野の砺波で開かれるバルーン大会



立山の高原植物